

(10)

陸上勤務方七十二中隊部隊磁歴

年月日	概	要
昭一九、七、二〇	東部方三十八部隊に於て動員完了	
七、三三	東部方三十八部隊所在地高崎出發	
七、三一	門司港出發	
八、一〇	沖繩本島那霸港上陸	
八、一〇	軍直轄となり軍補給部に配属せらる	
一〇、一	軍貨物廠に萩原小隊金井小隊配属 渡辺小隊は兵器廠に配属せらる	
昭二〇、三、二九	戦斗に入り二十日朝生存者を以て斬込隊を編成し全員斬込を敢行す	

第二十七野戦防疫給水部磁歴

年月日	概	要
昭一八、二、二四	(名)中部十三部隊に於て動員下令	
二、二七	動員完結 防疫給水部幸五七五三部隊編成	
一九、二、一〇	勢 防疫給水部五七五三部隊編入(幸より勢に及ず)	
五、二四	明石市川崎航空機会社防疫の為出發	
六、二〇	中部十三部隊に飯堂	
七、一五	球 防疫給水部五七五三部隊方三十二軍に編入	
七、一八	名古屋を出發	
七、三一	門司港を出發	
八、一〇	沖繩那覇港に上陸	
二〇、三、二四	沖繩戦に参加(一日橋附近)	
五、六	一日橋 高平、秋川 三ヶ所に病院を開く	
六、一	病院を閉鎖	
六、二二	才一嶽に就く(山部隊石部隊四十四旅団一部本部隊に残り三つ分れ参加)	
六、二三	右の三部隊の方面は糸満、米洲、上座地方	
	全員玉碎す	

(11)

(12)

独立自動車才二一五中隊略歴

年月日	概	要
昭一九七、三三	東部十七部隊にて編成	
八一	門司出港	
八一〇	那覇入港	
二〇、五、二七	中頭郡 島尻郡中岡にて戦斗	
六、四	島尻郡具志頭にて添川方面より進出の敵と戦斗	

才四十九兵站地区隊本部部隊略歴

(13)

年月日	概	要
昭一九七、三二	甲府市 東部才六十三部隊に於て動員完結	
八一	(才四十九兵站地区隊本部)	
八一	道林号球 刀五八九六部隊	
八一	門司港出発	
八一〇	那覇港到着	
二〇、三、二五	沖縄本島作戦に参加	
六、二〇	沖縄に於て喜屋武岬の戦斗に参加	
六、二五	部隊全員玉碎	
	沖縄に配属せらる前の隷属部隊名	
	甲府に八十三部隊に召集動員完結後直に沖縄に配属せらる	

独立自動車第二五九中隊略歴

年月日	概	要
昭一七、七、八	中部才三十一部隊にて動員下令	
七、九	動員完結	
八、一	門司港出帆(二船に分乘)	
八、一〇	中隊の二分の一那覇上陸 同日を以て才三十二軍に入り兵站の輸送業務に任ず	
八、二〇	中隊の残り二分の一那覇に上陸 那覇市若狭町商工学校内に駐せる中隊に入る	
八、二五	中隊の三分の一は島尻郡南風原村字山川部隊に駐 三部隊の庫庫並に入員洞窟作業に従事す	
二〇、三、二四	甲号戦備下令さる那覇に於て輸送業務に従事せる中隊は直ちに島尻郡南風原村山川の東極に人員洞窟に入り一部は輸送業務 一部は陣地構築に当る	
五	始め次才二十四師団の移動に当り島尻南方添川方面警備のため中隊の三分の二は(諒め編成)ありし特別編成才二旅団才一大隊に編入され(添川北方面に移動せり)	
五、一六	該方面の警備の任解かれ再々山川に移動す	
五、二〇	頃より部隊は首里赤田町に進出し首里周辺戦斗に参加す	

年月日	概	要
昭一六、七、二七	丸亀市歩兵才百十二連隊に於て独立速射砲才三大隊の編成完結	
八、二	坂出港出帆	
八、六	大津港上陸	
八、二二	満洲国海拉爾着	
八、二二	才六軍(満洲才六〇〇部隊)隷下に入りしめらる	
八、二二	海拉爾附近に在りて満ソ国境警備に任ず	
一九、六、二四	動員下令	
六、二九	海拉爾取出發	
六、二八	釜山取着	
六、三〇	釜山港出帆	
六、三二	沖繩県那覇港着	
六、三二	才三十二軍隷下に入りしめらる	
七、二	第九師団に配属を命ぜられ島尻地区の防衛に任ず	
七、二	才九師団台湾方面に転進するに併上才二十四師団に配属を命ぜられ前任務を続	
七、二	行部隊才力配備計画主力を以て小線附近に一部を以て糸満正面に配備す	
七、二	島尻地区に於ける陣地構築並に防衛に任ず	
七、二	沖繩軍甲号戦備下令す	

(16)

年月日	概	要
昭二〇、六二二		軍司令官の自決待らる爾後軍司令官の訓示に基き固吉既設陣地に於て連日連夜遊撃戦を展開、終戦に至る
八二九		大隊は終戦の事実なるを知り全員集結（総員三十五名）大砲、兵器、弾薬を爆碎し、 ^{32人} 長と共に米軍の抑当に於ず

昭二〇、七二〇

(17)

年月日	概	要
昭一六、七二〇	久留米四十八連隊動員完結	
七二七	内地港出発	
八一	大連港上陸	
八二五	東安省西東安着同地警備	
一九、六二六	同地出発	
七二二	冲繩那覇港上陸	
七二〇	中頭那嘉平納着	
七二八	今郡読谷山村字大木着 同地陣地構築	
九二二	同村字伊良皆着 陣地構築	
一〇、一一	同村字長田着 陣地構築	
一一、二〇	同郡越来村字白川着 陣地構築	
二〇、一一五	島尻郡大里村字古堅着 陣地構築	
五一	首里市北方一料の地点に進出戦斗参加	
五四	首里東北方半村末吉に戦進戦斗参加	
五一五	首里市松川町戦進戦斗参加	
五二九	島尻郡玉城村字中座に戦進戦斗参加	

独立遠討砲方七大隊部隊略歴

元独立遠七大隊 陸軍准尉 黒岩喜男助

(8)

年月日	概	要
昭二〇、六一二	島尻郡王城村字中座高地に於て全員切込玉碎	

陸上勤務才八三中隊部隊略歴
 (球才七八〇七部隊)

(7)

年月日	概	要
昭一九、七、二四	佐倉出発	
八、三二	沖縄県那覇市到着後同地附近警備に従事	
一〇、六	島尻郡神里附近の警備	
二〇、一、一五	那覇泊附近の警備	
三、二二	戦斗開始と同時に神里地区警備	
四、二〇	具志頭村与座中庄附近の警備従事	
五、六	首里北方石嶺松田附近の戦斗に参加	
五、一三	大黒附近の戦斗に参加	
六、二〇	摩文仁附近の戦斗に参加	

第三十二軍オニ野戦築城隊部隊略歴

(20)

年月日	概	要
昭一九七、二三	岡山中隊オ五十二部隊に於て動員完結	
八、一〇	岡山出發	
八、三二	門司港出發	
九、一	那霸港到着	
九、二	オ三十二軍の指揮下に入る	
九、三	津嘉山に於てオ三十二軍の戦斗司令所になるべき洞窟作業並に隣村喜屋武部落に於て沖繩陸軍病院の洞窟作業に従事す	
一三、八	オ三十二軍の戦斗司令所首里に変更に依り首里に移動す	
一三、九	首里に於てオ三十二軍の戦斗司令所になるべき洞窟作業並陣地構築作業に従事す	
二〇、四、一	首里に於て部隊主力は軍の直接防衛に任じ一部は工兵オ二十四連隊に配属首里周辺の道路及橋梁の補修に従事す	
五、三〇	首里より摩文仁(沖繩本島最南端)に移動	
五、三〇	摩文仁に於て軍の戦斗司令所の洞窟内部施設及鈴木兵団に配属眞桑平(摩文仁北方約四料)附近に於て陣地構築作業に従事す	
六、一七	部隊主力は鈴木兵団美田部隊配属せしれ眞桑平に於て眞桑平附近の戦斗に参加す(部隊長 生死不明)	

六、二〇

部隊一部は摩文仁附近の戦斗に参加 全員玉碎

(21)

--

(22)

年 月 日	概	要
昭一九、八、一五	独立工兵才六十六大隊略歴	京都市伏見工兵才五十三連隊補充隊に於て編成完結
八、一九		
九、七		
九、一六		
九、一六		
	那覇港上陸	才三十二軍司令官の隷下に入り才五砲兵司令官に配属せられ、那覇市に位置し 軍直轄砲各隊の陣地構築援助に任ず、以後戦斗に入る。

才三十二軍兵器勤務隊略歴

(23)

年 月 日	概	要
昭一九、八、七	編成完結 久留米市	
九、一五		
九、二四		
九、二八		
	那覇上陸	以後、沖縄本島に在り作戦に従事

独立速射砲方二十三中隊略歴

年月日	概	要
昭一九、六、五	滿洲回三江省鶴岡方十師団歩兵方六十三連隊内にて編成	
七、九	同地出發	
七、九	釜山港出發	
八、一八	沖繩那霸港上陸 以後戦斗に入る	

独立速射砲方二十三中隊略歴

年月日	概	要
昭一九、六、一〇	滿洲回海拉爾方二八三部隊に於て編成完結	
八、一	海拉爾出發	
八、一五	釜山着	
八、二五	門司港出發	
九、二	那霸上陸	
一三、一〇	同日附方九師団に配属せらるる島尻地区の防衛に任ず 方六十二師団に配属変更 歩兵方十五大隊に配属せらるる島尻地区の防衛に任ず	

(26)

年月日	概	要
昭一九七、二 〇、(六、五)	動員完結 那覇市外海南中学校々舎に於て 部隊長 友地軍医中佐 主力指揮 仲本軍医大尉	
一〇、一〇	初空襲 対空戦斗 屯営焼失	南原村国民学校へ移転
二〇、三、三三	戦斗熾烈化 南方地区へ転進	傷病兵の収養に努む 遂次、喜屋武、眞壁、摩 文仁の線に転進
六、一六	全員斬込	遊裏戦出表
六、三二	全員玉砕	

沖縄陸軍病院部隊略歴

野戦作并方二〇中隊部隊略歴

(27)

年月日	概	要
昭一九七 九	東京八五(国府台)動員完結 那覇省	
二〇、三、三三	戦斗開始	
四、末	斬込み	
五月中	島尻へ移動	
六、三二	島尻に於て玉砕	

野戦作并方二〇中隊部隊略歴

要

カ三十二野戦貨物廠略歴

年月日	概	要
昭一九、八、一	カ三十二野戦貨物廠は軍令陸甲ヲ令せられ	号に依り臨時編成部隊として編成を
八、一〇	滿洲國新京市大房身に於て編成に着手	
八、一五	編成(仮編カ三十一野戦貨物廠(甲))を完結せり	
九、五	爾後貨物廠は新京に在りて作戦並に転進準備に教育訓練を実施しありしが	
九、五	沖繩カ三十二軍隷下部隊に編入を命ぜられ	
九、一七	転進のため一部先発隊(ハ〇名)を釜山鎮に派遣し(乗船地に於ける)乗船準備を実施せしめたり	
九、一五	部隊主力は新京を出発し	
九、一七	釜山鎮に到着せり	
九、二二	釜山に於て一部先発部隊と合し(乗船準備を実施中の如諸資材及び携行軍用品の積載準備完了し)	
一〇、二五	以降敵船に分乗釜山港を出帆、沖繩に向け出航す。途中船団編成の九州西海岸	
一〇、二五	門司、博多、守島水道、有明湾、牛深、鹿児島湾等に於て待機しつつ	
一〇、二五	敵潜水艦の攻撃の中を強行突破し那覇港に上陸	
二〇、四、一八	カ三十二軍の隷下に入る	

り左の如く編成を完了し同日夕仲間に派遣す

戦車連隊(一隊の編成人員)

将校一、下士官九、計一〇

以降各隊は仲間附近の戦斗に於て敵戦車に対し肉迫攻撃を敢行し、戦車一輛の戦果をあげ、全員玉碎す。